

リスク管理

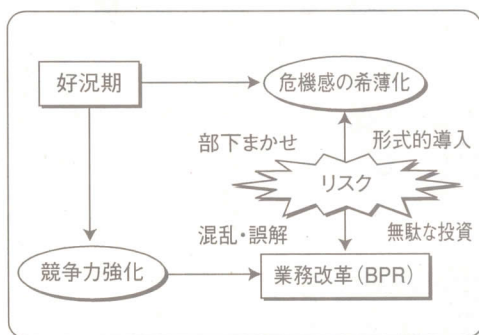
企業を取り巻く競争環境は、年々厳しさを増しており、更なる効率経営が求められている。そこで、企業収益も改善されたことから攻めの「業務改革(BPR)」への投資や取り組みを行って見たが、思うような成果が得られないばかりか、中には、業務改革を行ったはずが、かえって業務効率率が下がり社内の軋轢(けんりく)が増幅されてしまった、と嘆く経営者や現場責任者が多いのではないだろうか。危機感なき業務改革のリスクである。

◇ 業務改革は、問題点や課題のある業務フローを変更・更新することによって、新たに効率的で働きやすい業務環境を創出するためのものであり、情報システムの導入を伴う場合もある。不況期に

リスクマネジメント

ABC

好況期の業務改革



おける業務改革は、生き残りをかけた経営者が危機意識を持ちトップダウン型で行うために、不要人材のリストラなどの犠牲を払いながらも、多くの成果をあげることが出来る場合が多い。しかし、業績が好況な時期において行う業務改革に

という理由が正当化され、業務改革したはずの業務フローが現状維持型になってしまい、投資が無駄になるリスクがある。

また、目的が明確でないまま業務改革を実施すると、社内の官僚的な形式主義派に利用され、一

また、業務改革の実施にあたっては、部下まかせにせず、常にその進捗を見守る必要がある。効率化のためにアウトソーシングを行ったところ、その業務に精通していた社員の退職で現場のノウハウが消滅してしまっ

は、「事なかれ主義」や改革の「形式主義」が立ち塞がり、マイナスの結果を生み出すリスクがある。事なかれ主義が蔓延している部署では、新たな改革は必要ない、改革の実施は難しいという理由が正当化され、業務改革したはずの業務フローが現状維持型になってしまい、投資が無駄になるリスクがある。

また、業務改革の実施にあたっては、部下まかせにせず、常にその進捗を見守る必要がある。効率化のためにアウトソーシングを行ったところ、その業務に精通していた社員の退職で現場のノウハウが消滅してしまっ

社内の十分な合意必要

(日本総合研究所)